

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0891600140		
法人名	医療法人社団栄進会		
事業所名	グループホーム いきいきの家笠間 (愛宕ユニット)		
所在地	茨城県笠間市笠間4386-1		
自己評価作成日	平成30年9月20日	評価結果市町村受理日	平成31年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JizyosyoCd=0891600140-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成30年11月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

状態が重度化した際には、関連施設への受け入れの支援を行っています。笠間駅から近く、コンビニ、病院、薬局等が隣接されているため立地が良い。施設の中庭にシンボルツリーとして、しだれ桜が植えてあり、施設内からでもお花見を楽しむことができます。入居者様の希望にそって、外出の支援や行事を定期的に行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

昨年3月に開所した平屋のグループホームである。医療機関や薬局、公園に隣接し、笠間駅から数分の場所でありながら、ゆったりと時が流れ、落ちついた雰囲気がある。開設して間もないホームではあるが、町内会に参加し、地域交流も盛んである。利用者の「・・・したい」「・・・に行きたい」の気持ちを大切にしており、リハビリを頑張るより生活の中での楽しみを見つけていく、という管理者の思いを職員も理解し、協力して支援をしている。利用者も笑顔で食事をし、写真を見て話し、好きな曲を聞いたり、テレビを見たりと思い思いに過ごされていた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念の「いつまでも自分らしくいられる生活」に加え、事業所として「笑顔あふれる介護」を目標にし、毎日職員が目にする所に掲示し、目標に対しての自己評価を半年に1回行っています。	法人の理念とグループホーム事業部会で検討して作った目標は、職員の更衣室にも掲示し、意識付けを図っている。職員は半年ごとに理念・目標に沿った個別目標を作成し、管理者は職員のその目標と達成状況を確認している。職員からは、利用者ができるだけその人らしく今までの生活を継続できるようにしたいと、理念に沿った姿勢を感じ取れた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方が三味線や琴のボランティアに、定期的に来てくださっています。 町内会の行事にも参加させていただいています。	ボランティアの三味線などに合わせて利用者が歌い、ボランティアの方が「圧倒される」と言うほど元気がある。隣接する公園での夏祭りには、お囃子やお神輿がでて、行きたい方は参加した。20時過ぎのイベントにも起きている方は一緒に行くことがある。町内会の総会に出席し、グループホームの話もでき、地域の方の見学や認知症の相談も増えてきている。地域の草取りには職員が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町内会の集まりの際に、認知症についてのお話をする機会の場を検討いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回運営推進会議を開催しています。行政の方、区長様、居宅事業所の方、ご家族様等に出席していただいて、さまざまな意見を聞き運営に繋げています。	行政職員、区長、家族、居宅のケアマネ等が参加し、写真も提示しながらの行事報告、計画、ヒヤリハットの検証、ホームでの対応などを話し合っている。食中毒予防対策についての報告や学習も行っている。議事録はていねいに記録され、玄関において、誰でも閲覧できるようにしている。家族全員に会議の案内をしているが、参加が難しくなっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入所の相談や運営についての相談を、随時行っています。	毎月、稼働状況報告を役所に持参しており、いろいろな提出書類について教えてもらったり、良好な関係作りができている。協働事業に委員として参加し、社協とも良い関係が作れている。	

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、身体拘束についての話し合いを委員会を通して行っています。 玄関は夜間以外は解錠しています。	身体拘束防止委員会を設置し、身体拘束の動画を見て感想を述べあったり、ミニレクチャーなどの研修を行っている。皮膚をかきむしってしまう方について、医師の指示により、家族と相談・同意のうえ、ミトンを使ったことがある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎月、身体拘束委員会の中で、虐待についての話し合いをし、虐待に繋がりがちな案件がないか確認しています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、外部研修等に積極的に参加し、学ぶ機会を増やしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書にそって、ご家族様に説明させていただいています。 その他、定めのない事項につきましては、ご家族様と話し合いの場を設け決めさせていただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所された際や電話連絡等にて、随時ご意見を聞かせていただいています。 施設内に意見箱も設置させていただいています。	家族の方からの意見は特にはないが、要望については、結論を急がず、まず『可能にできるには』を考えるようにしている。パジャマの上に洋服を着ているとの家族の話を受けて着替えに注意をするようになった。「〇〇を食べさせたい」に、食べられるような環境を作るなど、意見にはきちんと取り組んでいる。落ち着いてきたら、お便りを作成できるよう考えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティング時や個別に時間を設け、意見を聞かせていただいています。	ユニット会議を定期的に行い、できないときは委員会で話し合っている。職員から「～したい」と言われることは多いが、職員の様子が変わったことがあれば、声をかけるようにしている。有給休暇を取るよう話しており、職員同士で融通し合いながらシフトを作成したり、働きやすい職場づくりに配慮している。職員からも、要望等については、常勤職員がとりまとめて管理者に伝えており、言いすぎることもあると話すほど、話しやすい職場環境であることが確認された。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に1回給与の見直しをしています。 有給休暇においては、遠慮なく消化していただけるように努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は外部研修を中心に、学びの機会を設けています。 内部の研修も今後は多く取り入れていきたいと思ひます。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の研修会や情報交換会に参加させていただいています。 定期的に他事業所に訪問させていただき、交流を図っています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の訴えをよく聞き、状態に応じて可能なかぎり希望にこたえています。 コミュニケーションを多くとり、信頼関係を築けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	いつでも遠慮なく訪問や電話等にて問い合わせさせていただいて対応しています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	状況により、他の関連施設の情報もお伝えし対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事の一部を入居者様と一緒にやり、役割を持って生活していただけるように支援しています。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者様からご家族様と話がしたいと訴えがあった際は、電話や面会にきていただけるようお伝えして対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に許可をいただき、友人や馴染みの方の面会も受け入れしています。	元の職場の友人が訪ねてきたり、手紙でやり取りをしている方と一緒にポストに投函に行くこともある。利用者が自宅にいたときの知り合いがボランティアとして訪問してくれている。行きつけの美容院を利用していた方がいたが、現在は訪問美容を利用するようになった。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日課の集団体操やレクリエーションを通して、全員が集まる機会を設け、他のユニットの方とも自由にお話ができる環境を作っています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所した際でも、必要に応じて他の施設や病院等との連絡や調整をしていけるようにしていきたいと思っています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日のコミュニケーションの中で、希望や意向を聞かせていただき、その方が望むことを提供できるよう支援しています。	殆どの方が意思表示が可能で、本音を語ってくれている。「～したい」「この職員は～」など、事務室に言いにくる方もおり、利用者は職員それぞれのことをよく見極めているようである。職員が気付いたことは、申し送りノート利用や個別に伝えて情報の共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族様にお話を聞き、少しでも馴染みの生活に近づけるよう支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や定期のミーティングにより、一人一人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット会議の中で、ケアの見直しや新たなニーズについて検討し、介護計画に反映させています。	6か月毎に、本人・家族の満足度と職員の意見を参考にして、評価基準を決めて課題ごとにまとめている。モニタリングは、記録の中から判断して行い、次の計画につなげている。家族には、面会時にケアプランを渡ししながら、意見を聞いている。	「ケアプランに基づいたケアをすること」を身に付けて、習慣化できるように、そして、実践内容に沿った記録方法について、職員間で話し合っていたくことを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録や業務日誌をもとに情報を共有しています。 その記録をもとにして、介護計画にも反映させています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態の変化に応じて、ご家族様や関連施設の職員と連携し必要なサービスの見直しを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの受け入れを定期的に行い、町内会行事にも入居者様と職員も一緒に参加させていただいています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の他に、個人個人かかりつけ病院に受診していただいています。 近隣の病院とも連携がとれています。	定期受診は家族付添いを基本とし、家族に様子を話したり、予め医療機関に情報を提供することもある。隣の薬局から医師に情報を伝えてもらうこともある。急変したときは、まず受診して家族に伝え、ケース記録に記載してマーカーをしたり、別枠で記載するなど、簡易に見分けられるよう工夫している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連施設の看護師に訪問していただき、医療に関する相談や助言を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報提供を行い、必要に応じて医療関係者と入院や退院の調整を行っている。 病院からの退院先としての受け入れの相談も行っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りの指針についての説明をさせていただいています。 状態により関連施設での看取りの受け入れの相談も行っています。	看取りの指針や、家族の希望もあるが、往診医が不在のため、現実的に看取りは難しい。重度化した場合は、同法人内の老健等への入院支援を行っている。老健と連携しており、週1回看護師の訪問がある。常勤職員は交代で外部研修を受講し、他の職員に報告をする。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	一部の職員しか講習を受けていないため、今後は多くの職員に救命講習を受けていただけるよう調整しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回消防訓練を行っています。今後は区長様と相談し、地域の方にも参加の呼びかけを行っていきたくと考えております。	消防署立会のもと訓練を行っており、区長も参加してくれた。災害別マニュアルを策定中である。非常用持ち出しグッズの準備はまだであるが、個々の薬のデータはファイルして持ち出せるようになっている。職員から、訓練を振り返ると、歩ける方でもいざとなると思うように行動できなかった、夜勤帯は特に不安が残る、との意見があった。	平屋で避難しやすい造りになっているが、夜間想定訓練を行い、全職員がまんべんなく参加できるような配慮、運営推進会議等を活用して、地域への呼びかけなどを検討することを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	月に1回接遇委員会を開催し、対応の仕方の見直しや、定期的に接遇研修を行い、施設全体で丁寧な対応を心掛けています。	言葉遣い、態度、身だしなみ、フロアの状況をみて『ため口にならないように』など、問題をピックアップしている。クレームになりそうな案件について、みんなで考えている。写真の掲載については、口頭で同意を得ている。行事の写真はホールに掲示し、一定期間が過ぎたら、個別の写真ファイルに移している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	様々な要望に対して、入居様様がみずから選択できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居様様のペースに合わせて随時対応しています。また食事時間、入浴、就寝時間等の希望があった際は希望に添えるよう検討し支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎月訪問美容室に來所していただき、希望の髪型にカットしていただいています。お化粧をしたい方には、化粧セットを用意し、本人の希望の時間に行ってもらっています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	定期的に希望する物を食べていただけるよう意見を聞き提供しています。 またお楽しみ献立や食事レクリエーション、外食のお出かけ等も行っています。	食材業者を活用しているが、お楽しみメニューも月1回以上取り入れている。家庭菜園や差し入れの野菜などを加えて、ユニット毎に調理をしている。職員も和やかに同じテーブルを囲んで食事をし、利用者は下膳などできることは行っている。外食は全体で行く、行きたいところに分かれて行くとユニットにより形態は異なっているが、利用者は楽しみにしている。すし、甘いもの、洋食などの希望が多く、テレビで見たものを食べたいということもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に応じてキザミ食、ペースト食の提供も行っています。 毎日食事量、水分量の記録をし医師や看護師と連携をし支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや介助を行っています。 状態に応じてブラッシングだけでなく、口腔スポンジや口腔ティッシュ等を使用し介助を行っています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄間隔が長時間あかないよう、随時トイレの声掛け誘導を行っています。 定時の介助にこだわらず訴え時はその都度対応し、居室にコールも設置してあるため、居室からでも職員を呼べるようにしてある。	ポータブルを利用しての方がトイレに行くようになった、ズボンの上げ下げが上手になったなど、支援により改善できた方がいる。夜間のみおむつ使用の方にも、できるだけパットで対応するような支援を行っている。家族から面会時にパンツをはいてなかったとの指摘があり、自立をしてもトイレの介助に配慮するようにしている。一つのユニットでは、トラブルを防ぐために男女でトイレを別にしていた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や散歩による軽い運動を取り入れたり、医師と相談し随時内服薬等の検討を支援しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週に2回の入浴日を設けています。 体調により入浴できなかった際は、予定日以外にも入浴ができるよう支援しています。	基本的に午後入浴で、週2回としている。拒否されたときには無理強いせず、相性のいい職員で対応したり、毎日声かけをして入れるタイミングを見つけるなど工夫をしている。ゆず湯などを実施。バスマットは個別にし、清潔保持に配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前には仲の良い方とお話しをしたり、好きなテレビを見ていただいたり、穏やかな気持ちになれるよう自由に過ごしていただいています。また晩酌が日課だった方には、お酒を飲んでいただく時間も設けています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	状態の観察をし、医師や薬剤師に報告するとともに助言や相談も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家庭で行っていた家事を、施設内でも行えるよう支援し役割も持ち生活していただいています。その他、野菜を作ることが好きな方には家庭菜園のお手伝いもしていただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	定期的買い物や外食の支援をしています。今年は笠間稲荷神社や芸術の森公園への外出、近隣のお花見などの行事を行いました。	公園に行ったり、家庭菜園で作業したり、散歩しながらコンビニに買い物に行くなどしている。買い物など希望が出たときは、なるべくその日のうちに出かけられるようにしている。菊祭りやつつじ祭り、小学校前の桜や友部の桜などを見に行っているが、「花見より食べるほうがいい」との声も多く、どこで何を食べるのかを楽しみにされている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在現金の預かりは行っておらず、施設で立て替えての対応をしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	事務所内の電話を使用いただき、連絡をとっていただいています。手紙の援助も希望に応じて対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	照明は明るさの調整ができ、適度な明るさで保たれている。施設内に入居者様の作った作品や、行事の写真等の掲示物も月ごとに変えています。	多くの時間を過ごすホールでの座席配置には配慮している。運動会、敬老会、菊祭り、誕生会などの写真が掲示され、写真を見ながら話題作りをしている。もみじののれんが秋を思わせる。ホールで一緒に過ごすユニットと、居室にすることが多いユニットと生活の仕方がそれぞれであった。	

茨城県 グループホームいきいきの家笠間

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	全部屋個室で、一人の時間を過ごすことができる。ホールにはソファを設置しており、気の合う入居者様同士でお話をしたり、テレビを見たりして過ごしていただいています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家庭で使いたれた物を自由に持ち込んでいただいています。 各部屋に備え付けとしてクローゼットを設置してあります。	仏壇や木製の引き出し、畳のベッドなど、思い思いの部屋作りがされていた。コタツをかけていた方もおり、電源の管理は職員が行っている。家族の写真、敬老会の写真などが飾られていた。居室担当が決められており、衣替え、布団の入れ替えなど家族との連絡もスムーズに行え、整理整頓も行き届いている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全に歩行できるよう床は滑りずらい材質の物を使用しており、段差もなくバリアフリーになっています。ご自分でできることは可能な限り行っていただき、残存機能を生かし自立した生活が送れるよう支援しています。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム いきいきの家笠間

目標達成計画

作成日: 平成31年1月28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	ケアプランに基づいたケアをすることを身につけて、実践内容にあった記録の方法を職員間で話し合い実践していかなければならない。	各ユニットとも、ケアプランの内容を全員が把握し短期目標・長期目標を達成するためのケアを、提供できるようにしていきたい。	ミーティング等にてケアプラン内容を職員にも把握していただき、目標達成にむけたサービス内容を検討し、サービス提供状況を介護記録に記載していただけるよう取り組んでいきます。	6ヶ月
2	35	昼間の災害時の訓練は消防署立ち合いのもと実施していますが、夜間を想定した訓練は行っていないため、夜間の災害時にも適切な対応がとれるよう訓練を実施しなければいけない。	消防署と相談し夜間を想定した避難訓練を実施する。また、地域の方にも参加していただけるよう声掛けをし協力して行えればと思っています。	半年内に消防署と相談し夜間を想定した訓練を実施します。また地区会長様に声掛けをし、地域の方にも参加していただけるよう働きかけを行っていく。	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。